

鹿島槍ヶ岳東尾根から五竜岳

2003年5月1日～3日
参加者 三名 吉田（記）

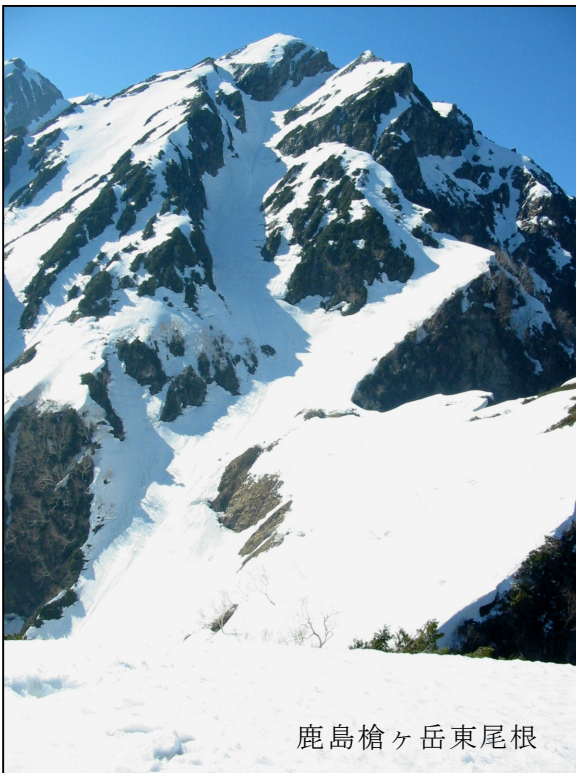
5月1日 快晴

大町のタクシー会社に自分の車を駐車させてもらい、タクシーで高瀬ダムに向かった。途中、運転士からダム上の吊橋が壊れたようで、北鎌には行けないかもしれないと告げられ、少し不安になる。高瀬ダムに着いてから、現地の人に確認すると、やはり、吊橋が壊れていて水量も多く北鎌は無理とのことであつた。出鼻をくじかれた形でガックリしたが、このまま此処に居ても仕方がないので、とりあえず、タクシー会社まで引き返し、自分の車で大町のコンビニまで行き、そこで今後のことを話し合う事にした。

代替コースを如何しようということで、松田さんから電話で聞いた意見も参考にして、3人で相談した結果、鹿島槍の東尾根から五竜岳に行き、その先は、成り行きに任ずということで、とにかくルートは決定した。最初は、地図を持っていなかったたので、本屋の開く時間まで、ここで待つことにしていたが、佐藤さんの機転で、付近

にいた登山者が持っていた昭文社の地図をコンビニでコピーすることができたので、急いで登山口に向かった。

大谷原の登山口の駐車スペースには、連休の狭間ということもあって、車は数台しか駐車していなかった。大冷沢に沿う林道を歩いた。大きな堰堤を越えて、なおも林道を歩いたが、取り付きが出てこない。ここで、佐藤さんが来る途中で赤布を見たようだというので、適当な斜面から取り付き、来た方向に戻り気味にルートを取って登っていった。しばらく、戻り気味にルートを取って



鹿島槍ヶ岳東尾根

いたが、正規のルートには戻れそうにないようなので、とにかく上を目指して薮のなかを登っていった。

最初はそれほど急でなかったが、登るにしたがい斜度が増してきて、そのうちに木登り状態になってしまった。おまけに途中一箇所岩が出てきてザイルまで出した。「4級上の薮漕ぎだなあ」といいながらも、3時間ほど登っていくと、前方が開けた感じに見えたので、期待を込めて急ぐと、やはり、雪溪が出てきて、薮も少なくなっていた。その後は、部分的にブッシュが出てくるが、概ね快適な雪溪歩きが続き、一ノ沢ノ頭にひよつこりとした。

一ノ沢ノ頭に出ると、今までとは大違いで、視界が広がり、東尾根の全貌が見えるようになった。快晴のなか、爺ヶ岳が妬げに立派に見えた。右側が広々とした尾根を二の沢ノ頭まで歩き、今日は、ここを泊まり場と決めた。コースタイム

大谷原車デポ（9時10分）→二ノ沢ノ頭（15時00分）

5月2日 快晴

佐藤さんが雪の腐る前に東尾根を抜きたいというので、やや早めの出発となった。北股本谷側の雪面を登り、さ

らに、急な雪壁を登ると、第一岩峰の基部に着いた。第



第二岩峰

一岩峰は、一ピッチ目が簡単な岩、二ピッチ目は草つきルンゼ、三ピッチ目は雪壁で構成されていた。第一岩峰を越えてから、しばらくの間やせた雪稜を辿ると、第二岩峰にでた。核心部と言われているチムニーにはシュリングが数本垂れ下がって見えた。一ピッチ目は易しい岩登りである。二ピッチ目のチムニーは、荷があつたので、抜け出る部分が少し難しかった。岩峰を越えると、問題になるところもなく鹿島槍の北峰へと導かれた。

鹿島槍の南峰に続く道を少し降りたところに分岐点があり、そこで、鹿島槍と分かれて五竜岳に向かった。稜線に残っている雪の量はそれほど多い訳ではないが、キレットの下降は思いのほか悪く感じた。滑落に注意して慎重に降りていくと、やがて、荒沢側を巻くように付いていた夏道が雪溪で埋まっているところにでた。前方を見ると、梯子みたいなものが見える。佐藤さんがザイルを着けて雪溪と左側壁との接点に沿って登っていった。少し登ったところで、佐藤さんが右足を雪溪に付けたと思つたら、その部分の雪が崩れた。このまま行くのは危険と判断して、左側の岩にルートを求めて、ザイルを伸ばしていった。このルートは3級ぐらいの岩で上に支点もあつた。

その後は、雪もほとんど残っていないように思われた

ので、アイゼンを外した。概ね夏山のような道が続くが、部分的には雪も見られた。黒部側の斜面に大きな雪溪が見えてきた。それをトラバースすると急に道が怪しくなってきた。雪溪まで戻って辺りを探すと、雪溪の下のように夏道が見えた。雪溪の途中には鎖も見えた。アイゼンを着けて、半分ほど後ろ向きで降りたが、途中で懸垂に切り替えて夏道に降りた。

その後は、山本さん目掛けて石が落ちてきてヒヤリとした場面はあつたが、特に危険な所もなく、無事キレット小屋に着いた。小屋はやっていないが、周りはきれいに整理されていた。小屋の前にはテントが数張り張れる広さがある。冬に五竜岳から縦走した場合、ここにテントを張れるのではないかと思った。小屋の前で、剣岳を見ながら少しゆつくりした。

口の沢の鞍部に3時30分についた。北尾根の頭をテング場に考えていたが、疲れていたこともあり、今日はここまでとした。

コースタイム

二ノ沢ノ頭（5時30分）→第一岩峰（6時30分）→
第二岩峰（8時30分）→鹿島槍北峰（10時30分）→
11時00分）→口ノ沢のコル（15時30分）

5月3日 晴れ

今後のルートがまだ決まっていけないので、決める必要があった。白馬までは少し遠い感じがする。唐松まででは行く意味がない。という訳で、遠見尾根を降りることまでは決まった。五竜山荘にビールがあれば買い込んで尾根の途中にテントを張って宴会。または、佐藤さんがGⅡ中央稜を登りたそうなのでそれをする。あるいは、そのまま下山して下界で宴会。という3案がだが、どれも決定打に欠け、決まらないままに出発となってしまった。

コルから30分ほどで北尾根の頭についた。G5とG4の岩峰は巻いて越えた。五竜岳が近くなってきたところで4人ずれのパーティとすれ違った。鹿島槍からの縦走では初めて会ったパーティであった。五竜岳の登りでは、上部が急な雪壁になっていたので、途中でアイゼンを着けた。頂上で記念写真を撮ってから腰を下ろして休んでいると、3人ずれが登ってきた。

五竜岳北側の夏道には、キレット側とは大違いで、たくさんの登山者がいた。山荘で、従業員にビールはあるかと尋ねると、あるという。はじめは、ビールを買い込んで遠見尾根で宴会をする方向に流れが傾いていたが、まだはつきりと決まった訳ではない。そのうちに、ぜん

ぜん疲労していない佐藤さんがGⅡ中央稜を登りたいみたいで、盛んに進めるが、他の二人は、「ウー」と言ったりで乗らない。結局、GⅡ中央稜は雪が少なく藪のぼりで終わるだけで登攀価値は余り無いと無理に理由をつけてパスした。そして、宴会をやるならば、下界で徹底的にやろうという一番安易でLも内心望んでいた案に決まった。遠見尾根は、上部には急な雪渓もあったが、トレースがしっかりしていたので、別段問題になるところはなかった。

コースタイム

口ノ沢のコル（6時00分）→五竜岳（8時50分）→
遠見尾根テレキャビン（13時30分）